

香取市図書館基本計画（案）

香取市教育委員会

目 次

第1章 計画策定の目的・背景	3
1 計画の目的	3
2 計画の位置付け	3
3 計画の期間	4
第2章 図書館の現状	5
1 市内図書館の現状	5
（1）図書館のネットワーク化について	5
（2）複数館（施設）の効率的な運営	5
（3）佐原中央図書館の移転計画	6
（4）資料の収集について	6
（5）様々なサービスの提供	7
2 行政から見た主な課題	7
第3章 基本理念と基本計画	8
1 基本理念	8
2 基本計画と成果指標	8
（1）市民ひとりひとりの学びを支えます	9
（2）郷土の歴史や文化を支えます	10
（3）子育てを支援します	11
（4）各種図書館サービスの充実を図ります	12
（5）進化し成長する図書館を目指します	13
（6）専門的な知識を持つ司書を育成します	15
（7）環境を整備し、利便性、安全性を強化します	16
第4章 計画推進のための管理運営計画	17

第1章 計画策定の目的・背景

1 計画の目的

少子高齢化、グローバル化、高度情報化社会への進展など、刻々と社会情勢が変化する中で、多様化する市民のニーズに的確に対応し、全ての市民に対し、総合的、計画的かつ効果的な図書館サービスを提供するために、本市の図書館及び読書施設（以下「図書館」という。）について目指す姿を明らかにするとともに、サービスの目標指標を設定した香取市図書館基本計画を策定します。

2 計画の背景

香取市は平成18年3月の合併後、平成20年に「香取市総合計画」（以下「総合計画」という。）を策定し、「市民協働による暮らしやすく人が集うまちづくり」を基本理念に掲げ、「元気と笑顔があふれるまち～一人ひとりの市民が輝く 活みなぎる やすらぎの郷 香取～」を将来像として定めました。

「総合計画」の基本計画第4章の3「ひらかれた生涯学習活動の推進」では、市民がいつでもどこでも学びたいことを学べる「生涯学習体制の確立」と市民の生涯学習ニーズに対応するための「生涯学習施設の機能充実」に取り組むこととしており、そのためには、生涯学習の拠点として図書館の有する機能を有効に活用することを重要視しているところであります。

また、21世紀を担う有為な人材を育成するために、本市の実情に即した教育の改革に取り組み、これまで以上に計画的かつ総合的に教育行政を推進する必要があることから、教育委員会では、平成22年3月に本市教育の指針となる「香取市教育ビジョン」（以下「教育ビジョン」という。）を策定しました。この計画の中でも、多様化、高度化する市民の生涯学習ニーズへの対応を図るため、社会教育施設等の再整備と機能の充実を謳っています。

今日の生涯学習社会における図書館には、「読書三余」^(注1)と言われるようなゆとりある読書主体のニーズにとどまらず、文化を享受し、教養を深め、新しい情報に触れることを通じて市民一人一人が豊かな人生を享受できるための機能が求められています。

また、社会情勢の変化に伴い、人々が直面する課題は、日々変化を続けています。

このため、図書館は、常に新たな情報の収集、発信をし、そうしたニーズ的確に答えていく必要があります。

本計画は、このような情勢の中で、図書館が持っている機能をさらに充実し、市民サービスの質的向上を図るため、「総合計画」及び「教育ビジョン」を受けた市の個別計画として、本市がめざす図書館の姿を明らかにするとともに、その実現に向けて今後5年間に取り組むべき施策を示すものです。

3 計画の期間

本計画は、平成29年度から平成33年度までの5年間とします。なお、毎年度、点検・評価を行い、5年後に見直しを実施します。

注1．読書をするのに好都合な三つの余暇。一年のうちでは冬、一日のうちでは夜、天候のうちでは雨降りをいう。

第2章 図書館の現状

1 市内図書館の現状

(1) 図書館のネットワーク化について

平成18年の合併により市内の図書館は、佐原中央図書館、小見川図書館、山田公民館図書室、栗源公民館読書コーナーの4施設となり、登録者や資料データの一元化と、施設間での資料のやりとりをする体制の整備が早急の課題となりました。

このため、平成22年4月に市内4施設を香取市の図書館サービス及び情報発信の拠点とすることを目的とした「香取市図書館ネットワーク計画」が策定されました。

当初の計画では平成22年10月に中核館となる佐原中央図書館の図書館システムを更新し、平成23年に残る3館の電算化に着手する予定でした。しかしながら、平成23年3月に発生した東日本大震災により、計画が遅延し、当初より2年遅れの平成25年4月、小見川市民センター内に移転した小見川図書館と山田公民館図書室が電算化されました。

さらに、平成26年12月には震災で使用できなくなった栗源公民館読書コーナーの代わりに、栗源市民センター内に新たに図書室が設けられたことにより市内4施設を結ぶネットワークが完成しました。

(2) 複数館（施設）の効率的な運営

現在、香取市にある4つの図書館は、地域に根ざした運営を大切にしながらも、図書館情報システムによるネットワーク化を図るなど、サービスの向上と運営の効率化に努めています。

ネットワーク化により本の貸出、返却、検索、予約などのサービスが市内のどの施設からでも可能となり、また、本庁と支所を結ぶ庁内メール便を用いた物理的な資料運搬サービスの展開により、市内のどこの図書館からでも本の受け取り、返却ができるようになりました。

このほか、インターネットを通じて自宅のパソコンや携帯電話等からの資料の検索や貸出予約も可能となっています。

(3) 佐原中央図書館の移転計画

市内にある4つの読書施設のうち、小見川図書館は平成23年度に、栗源市民センター図書室は平成26年度にそれぞれ施設の改修と移転が完了しています。

佐原中央図書館は昭和54年の開館から36年を経ていることから施設の老

朽化が進み、様々な不具合が生じています。また、情報機器の進歩や市民生活の変化、施設の構造上バリアフリーへの対応が困難なことから、現在「佐原駅周辺地区複合公共施設整備事業」の一環として、新たに設けられる複合施設内への移転が計画されています。

移転計画の検討にあたっては、市民アンケートの実施や県内外の先進的な図書館の視察・先進事例等の調査研究を重ね、幅広い年代の市民が読書や学習に親しみ、情報や歴史にふれながら気軽に憩うことができる知的創造活動・生涯学習活動の拠点として整備することを目指しています。

(4) 資料の収集について

日々の業務や、市民アンケート調査の結果から、蔵書の充実、特に新刊書に対する要望が高いことがわかります。

一方、図書館は新しい情報を提供することはもちろん、貴重な資料を保存し、後世に伝えていく役割も担っています。

地域に深く関係する資料などは、古くなったからと言って安易に除籍せず、望ましい蔵書数や適正な内容についてどうあるべきか常に協議、検討を行っています。

(5) 様々な図書館サービスの提供

図書館は、単に資料を収集、保存、貸出するだけではなく、司書による専門的なサービスを行っています。

① 児童サービス

本市では、平成23年度に「香取市子どもの読書活動推進計画」を策定し、乳幼児から中学生までを対象に、家庭、地域、学校、関係機関と連携しながら、子どもの自主的な読書活動推進への支援や読書環境の整備充実など、子どもの読書活動の推進に必要な施策を実施することとし、図書館では、はじめての絵本（初期読書啓発事業）、えほんのじかん、おはなし会、ブックリストの作成、学校への団体貸出、調べ学習の援助などを行っています。

また、児童サービスの一環として、ヤングアダルト^(注1)を対象とした資料の収集にも努めています。

② レファレンスサービス^(注2)

利用者が学習・研究・調査のために必要な資料や情報を求めた時に、司書が手助けして図書館の資料を提供したり回答したりして、利用者と資料を結びつけるサービスを行っています。

③ 郷土行政資料サービス

香取市に関する行政資料、中でも旧1市3町の歴史や、香取郡の歴史、伊能忠敬、祭り、町並み、香取神宮、利根川など地域資料を重点的に収集し、閲覧

に供しています。

④障害者サービス

視覚障害者向けの資料として、大活字図書やCDブックを購入しているほか、ボランティア団体による点字本の寄贈図書を配架しています。

⑤高齢者サービス

高齢者の読書活動や生涯学習に対する支援だけでなく、明るい照明、大活字本など、図書館の基本的な設備や機能の拡充に努めています。

2 行政から見た主な課題

(1) 図書館施設に係わる課題

- ・図書館サービスの中核機能となる佐原中央図書館の移転整備
- ・憩いの空間があり、気軽に市民が本に親しめる図書施設の充実

(2) 機能・サービスの課題

- ・来館が困難な人や障害者へのサービスの充実
- ・利用者の年齢層に応じたサービスの拡充
- ・情報格差の緩和を支援する取り組み
- ・市民の知的欲求や余暇の充実につながる取り組み
- ・郷土、行政資料の収集及び継承に関する取り組み
- ・市民協働やボランティア活動の機会の提供

(3) 図書館運営に係わる課題

- ・市内図書施設の効果的な連携
- ・各施設の蔵書規模と構成の見直しによる市図書施設全体としての効果的な資料提供と適正な資料管理
- ・カウンターの貸出返却業務等の迅速化
- ・館内整理の時間短縮、正確な資料管理等の工夫による開館日・開館時間の見直し
- ・利用しやすい書架とするための蔵書構成や配架の工夫
- ・コスト削減などに有効な手段の導入
- ・図書館活動PRの充実
- ・次世代の図書館サービスを担う若い世代の職員の育成

(注1) 思春期から成人後間もない読者層を想定した、児童と一般の間のカテゴリー。

(注2) 図書館員が利用者の調査研究に対して、資料や情報を提供することでこれを助ける業務。参考業務。

第3章 基本理念と基本目標

1 基本理念

図書館は、人と本、人と知識、人と情報を結び、更には人と人との繋がり場の場所となることをその目的とします。

そのために、過去と現在、そして未来を繋ぐ、香取市の情報発信とネットワークの拠点となると同時に、多くの市民が訪れることで心が安らぎ、多種多様な資料を備え、全ての年齢層の利用者にとって魅力的かつ快適、安全な施設となり、個々人の生涯学習活動に資することで香取市全体の活性化に寄与することを基本理念とします。

2 基本目標と成果指標

1. 市民ひとりひとりの学びを支えます。
2. 郷土の歴史や文化を支えます。
3. 子育てを支援します。
4. 各種図書館サービスの充実を図ります。
5. 進化し成長する図書館を目指します。
6. 専門的な知識を持つ司書を育成します。
7. 環境を整備し、利便性、安全性を強化します。

【基本目標1】市民ひとりひとりの学びを支えます

話題の新刊から古典的な名作までを幅広く取りそろえ、利用者の多様なニーズに対応します。

また、利用者の調査研究のお手伝いをすることで生涯学習の意欲を高めます。そのために県内外の図書館との連携を継続します。

主な施策

○資料の充実

質の高い図書館サービスを継続、発展させるために、適切な資料費を確保し、資料の質と量の向上を図ります。

○多様な情報提供手段

インターネットに接続された端末、無線LAN、Wi-Fi、商用データベース（注1）、電子書籍（注2）等、図書館＝本＝紙という固定観念にとらわれず、様々な媒体による最先端のサービス導入を進めます。

○市内ネットワークの緊密化

市内の読書施設を繋ぐネットワークを強化、有効活用し、情報の発信はもちろん、連携を緊密化し、資料そのもののやりとりの迅速化を図ります。

成果指標

指標	現状	目標	目標年度	備考
貸出冊数	224,000冊/年	230,000冊/年	平成33年度	
市民の登録率	30.9%	35%	平成33年度	

注1. 新聞、雑誌の記事検索、法律・判例情報等、インターネットで提供される有料のデータベース。

注2. コンピュータなどで読む文章を中心とした電子出版物。

【基本目標 2】郷土の歴史や文化を支えます

本市の持つ歴史的な価値や文化を重視しながら、郷土、行政資料を収集、整理、保存し、内容細目の目録等を作成することにより、郷土史の研究に役立てます。また、大学や研究機関との連携を図り、より専門的な知識や情報を提供します。

主な施策

○郷土、行政資料の収集と発信

- *佐原中央図書館及び小見川図書館を中心に、収集・保存する機能を充実させます。
- *また、多くの市民に地域のことに関心をもってもらうため、佐原中央図書館を中心に積極的な公開や情報発信に努めます。
- *市役所各課・機関や関係団体の協力を得て、収集体制を整備します。
- *研究者や地域の歴史を知る市民の協力を得ながら収集に努めます。

○郷土に関する調査研究への支援

従来所蔵している郷土、行政資料の整理、保存、活用に加え、関連部署や在郷の郷土史研究家とともに協力、連携し、香取市に關係する貴重な資料の調査を支援し、情報の集積を図ります。

○地域資料等のデジタル化への対応

○歴史的価値のある公文書の保存と公開

- *市役所の各部署のほか、市内の行政関連機関に対して、資料・情報提供を呼びかけます。
- *歴史的に価値のある公文書の保存及び公開の在り方について関係各課と検討します。

成果指標

指標	現状	目標	目標年度	備考
郷土、行政資料 所蔵冊数	11,143冊	12,000冊	平成33年度	

【基本目標3】 子育てを支援します

福祉施設や教育施設と連携して、図書館の資料や司書の知識を学校や家庭における子どもたちの読書活動や調べもの学習に役立てるとともに、次の世代を担う子どもの豊かな感性を育てるために読書啓発事業を展開します。

また、子どもに対し、読書の大切さを発信します。

主な施策

○子どもの読書活動の推進

- *児童サービスに係る図書館の機能を十分に活かして、子どもと保護者がゆっくりと向き合える場と機会を提供します。
- *各図書館での児童コーナーの充実を図ります。
- *保護者を対象として絵本の大切さを伝える事業を開催します。
- *乳幼児、幼児、小学校低、中、高学年向けにそれぞれ推薦図書リストを作成します。
- *香取市子ども読書活動推進計画に準拠した活動を展開します。
- *市内小中学校図書館との連携を進めます。

○学校教育への支援を推進

- *児童生徒の調べもの学習・自由研究を支援します。
- *学校教育に必要な資料・情報を提供します。
- *体験学習、職場体験などの受け入れ体制の充実を図ります。
- *学校への団体貸出の充実を図ります。

○学校司書との連携による学校図書館の充実を支援します。

○保育所、幼稚園、学童クラブ、児童館と連携します。

成果指標

指標	現状	目標	目標年度	備考
団体 ^(注1) 貸出冊数	6,700冊/年	7,000冊/年	平成33年度	
児童貸出冊数	71,000冊/年	74,000冊/年	平成33年度	
子ども向け行事参加人数	900人/年	1,000人/年	平成33年度	

注1.個人ではなく、学校や施設、ボランティア等の団体に対する貸し出し。

【基本目標 4】 各種図書館サービスの充実を図ります

市民の様々なニーズに応えることができるように、新たなサービスを提供するとともに、従来行っていた各種図書館サービスの充実と質の向上を図ります。

主な施策

○ヤングアダルトサービスの充実

- *新たにヤングアダルトコーナーを設けます。
- *文学に限らず、ファッションやスポーツ等、青少年を対象とした資料の収集など、サービスを充実させます。
- *団体貸出や、学校図書館の運営相談など、中学校図書館、高等学校図書館との連携強化、拡充を進めます。

○高齢者サービスの充実

- *高齢者の生涯学習の基盤として図書館を有効に利用してもらえるような事業の実施に努めます。
- *大活字本など高齢者にも読みやすい資料の充実を図るとともに高齢者にやさしい施設・備品の充実を図ります。
- *高齢者施設と連携したサービスを目指します。

○映像や音楽などの視聴覚資料を充実します。

○来館が困難な人へのサービス

- *高齢や療養、産前産後などで来館が困難な人へ、宅配（有料）で貸出・返却できるシステムの構築やデジタル資料（電子書籍等）の充実を目指します。

○障害者サービスの充実

- *音声による資料や大活字本を充実します。

○多言語サービスを充実します。

- *言語の違いによる情報格差を軽減するため、関係各課や団体などと協力し、外国語で書かれた資料の収集・提供に努めます。

成果指標

指 標	現 状	目 標	目標年度	備考
視聴覚資料 ^(注1) 所蔵冊数	1,269件	1,500件	平成33年度	
大活字本 ^(注2) 所蔵冊数	235冊	300冊	平成33年度	

注1 資料のうち、CDやDVD等、主として文字ではなく画像、映像、音声によって情報を記録した資料。

注2 低視力者、高齢者等にも読みやすいように、文字の大きさや行間等を調整した本

【基本目標5 進化し成長する図書館を目指します。】

従来のサービスや事業を継続するだけでなく、市民のニーズに応え、あるいは潜在的な要望をいち早く察して対応するために、図書館は常に進化し、成長する必要があります。また、図書館の活動内容を外部に向けて発信し、啓発に努める必要があります。

同時に市民が少しでも利用しやすい環境をつくることも重要です。

主な施策

○図書館活動の啓発活動の推進

広報を通じた図書館活動のPRや読書の大切さを発信します。

○ホームページの充実

*わかりやすく親しみのあるホームページを作成します。

*ホームページを活用したPRを積極的に行います。

○情報通信技術を活用した図書館サービスの充実

*情報通信技術を積極的に活用します。

*利用者向インターネット端末を充実します。

○商用データベースの活用

*専門データベースを充実します。

○パソコン利用環境の確保

*学習手段として市民が持参するパソコンの利用環境の確保を進めます。

*パソコンを利用しない市民への配慮も行います。

*電子メールによる調べ物や調査の支援を実施します。

○就職、転職、職業能力開発等の資料・情報の収集と提供

*就職、職業能力開発などの資料・情報の収集と提供を行います。

○病院、各種高齢者施設との連携

団体貸出等、各種サービスを提供します。

○公民館やその利用団体との連携

*公民館の講座に必要な資料・情報の提供を進めます。

○おはなしボランティアとの協働

*ボランティアへの支援やボランティアとの協働による事業を実施します。

○視力障害がある人を対象にしたボランティアとの協働

○読書の大切さの発信

ボランティアグループや書店などと連携し読書の大切さを地域に発信します。

○読書手帳の導入

成果指標

指 標	現 状	目 標	目標年度	備考
インターネットサービス利用件数 ^(注1)	5,800件／年	8,000件／年	平成33年度	

注1. インターネットを介した、予約、貸出延長、パスワードの発行等。

【基本目標 6】 専門的な知識を持つ司書を育成します

図書館は地域の大切な資料を収集し、保存し、後世に伝えていく責任があります。そのためには長期的な視点にたち、計画的な運営が必要です。また、図書館は蔵書や利用する市民を含めて成長していきます。

そのためには、専門的な知識をもち、経験を積み重ねた司書の配置が大切です。

また、長期にわたり図書館活動を充実させるためには、図書館職員の質の向上だけではなく、計画の進捗に対する自己点検・評価に加えて、第三者機関としての図書館協議会等による外部評価が必要です。

主な施策

- 長期的な視点に立った図書館司書の配置と育成
- 職員の内外の研修への参加
 - *職員の高質の向上を図るために、外部研修に積極的に参加します。
- 図書館運営の自己点検・評価の実施
 - *毎年、計画の自己点検・評価を実施します。
- 図書館協議会等による外部評価の実施
 - *毎年の自己点検・評価の他に図書館協議会による外部評価を実施します。

【基本目標 7】 環境を整備し、利便性、安全性を強化します

図書館を初めて利用する市民が戸惑うことのないように、明確な館内表示や、年齢に応じた読みやすいパンフレットの作成が必要とされます。

また、不特定多数の人が出入りする図書館にとって、利用者が安心して利用できるように、防犯、防災などの安全に対する十分な配慮も必要となります。

○より安全で安心して利用できる環境の整備

- *各施設の災害対策を強化します。
- *学習室、児童室、トイレなどの安全を確保します。
- *書架の配置を考え、職員の見回りの頻度を増やします。
- *警察に協力を依頼して防犯体制を強化します。
- *職員の防犯研修を実施します。

○分かりやすい案内や掲示の推進

- *館内外の案内・掲示の整備を進めます。

○わかりやすいパンフレットの作成

- *年齢に応じて、わかりやすいパンフレットを作成します。

○利用しやすい開館日時の設定

- *市民の利便性を考慮して柔軟に対応できる体制を目指します。

○誰でも気軽に利用できる空間作り

- 書架の配置や館内のレイアウトなど快適な空間づくりに留意します。

成果指標

指 標	現 状	目 標	目標年度	備考
防犯訓練の実施	不定期	毎 年	平成29年度	

第4章 計画推進のための管理運営計画

前章の基本理念・基本目標に掲げる各種施策・サービスを継続的に提供する基盤を整備し、資料・情報を市民に責任を持って確実に提供する市の教育機関として、図書館サービスの専門家を適正に配置し、教育行政を効果的に推進する図書館運営をめざします。

これを実現するため、以下の方針を定めることとします。

(1) 計画の進捗管理及び評価の実施

- ・計画の進捗管理は、図書館自ら行います。
- ・毎年、前年度の事業報告をもとに内部評価を実施します。
- ・数値の達成状況は、成果の自己点検・評価を行うとともに、利用者アンケート等に基づき検証します。
- ・図書館で行った内部評価の外、香取市図書館協議会による外部評価を実施します。
- ・上記評価をサービス・運営の改善に結びつけ、より効果的で、効率的にサービスが提供できるよう、年次計画及び5年後の計画について見直しを行うこととします。

(2) 専門的な職員の配置と質の向上

- ・市民の多様なニーズに応え、社会の変化にも対応しつつ様々な資料・情報を的確に提供するため、高い専門性を持った職員を配置します。
- ・また、職員やスタッフの質の向上を図るための研修体制を整えます。

(3) 資料の整理及び管理の適正化

- ・佐原中央図書館の移転整備に際し、各図書館の施設規模・役割に合わせて蔵書規模と構成を見直し、4施設で効果的な資料提供と適正な資料管理を行います。

(4) 市民協働、ネットワーク化の推進

- ・市民ボランティアとの連携を積極的に進めるとともに、市民参加型の企画を積極的に実施します。
- ・また、図書館ネットワークの充実を図るほか、学校等関係機関・各種団体とのネットワークを構築します。

(5) 機械化・自動化の推進

- ・効果的な機械化・自動化の推進を図りながら、市民へのサービスの向上と運営を効率化します。
- ・インターネットを利用した蔵書検索や資料予約の利用者を拡大します。